



1965 Chevrolet Impala Wgn

アメリカ車のデザインが洗練され、60年代は同時にクルマの使用目的も拡大し利用したことで、ワゴンも様々なボディサイズやバリエーションが生まれた。そのなかでもっとも大きかったのがフルサイズワゴンだ。

text/S.Koike 小池 聡史 photo/ALTAIR



●実用としたたつまい、アメリカ車のアメリカ車らしいデザインもステイリングとは違つたクルマのことでしょ。価格は176万4000円

ベーシックな アメリカン・ フルサイズワゴン。



→84年式までに人気を集めるインパラだが、65年式の流れたデザインも見逃せない。3連テールはインパラのアイデンティティ

→デザインに直線が多用されてきたのが60年代。当時の常用気をもそのまま伝えてくれるコクピットは最高の空間



↑全長5500mmという長さを乗りこなすには広い心と広い車庫が必要である。当時の定番ワゴンも今では夢のワゴンである



↑サーフボードだろうウッドベースだろうなんでも入るよの広大な荷室。目のアメリカ人はかなりの荷物持ちだったのかね



↑ホイールはF16インチ、R20インチのトルクトラスト履き。オールドカーに大径ホイールを履かせることもはや安価化してきた



↑新車時は283 V8を搭載してたんだぜというエンブレム。現在はエンジン、ミッションとも換装されているので飾りとして機能する



↑エンジンは程長くチューニングされた360 (5.7リッター) V8。当時モノの純正エアコンも装備しているのがファミリーも安心



↑ボディは大きいミラーはメッキの小さいタイプ。ボウタイマークも刷印された純正タイプを装備。三角窓との相性も抜群



RED-LINE
横浜津北区新羽町1496-1
TEL045-545-9111
12~20時 水曜休
www.redline045.com



「ファミリーユースが可能な古いアメリカ車をメインに扱うフレッドライン代表の宮主さん。完璧な知識の長いモデルが大得意」

往年のアメリカンはその大きさを楽しむ。60年代シボレーの主カフルサイズカーだったヒスケイン、ベルエア、インパラの3車種。そのなかでもっとも上位機種だったインパラは、当時としてはもっともベーシックなボディスタイルを持ったワゴン。圧倒的なスタイリングにリアサイドの巨大な1枚ガラスはこの年代のワゴンならではのデザイン。当然、ボディサイズも迫力、2メートル近い車幅と6メートル近い長さで、現代のエコノミーカー時代からはかけ離れた逸材。ひとつ間違えば無駄とも思える巨大さを、確かな個性と想って乗ることが出来る人限定の車種である。しかもこの時代のシボレー、とくにインパラに関しては、今でもパーツの供給には困らない。まさにフルサイズワゴンの入門車にもってこいの1台なんだよね。